

自主簡易アセス公開セミナー開催報告

2017 年 1 月 NPO地域づくり工房

はじめに

本会では「自主簡易アセス」の取組みを広げるために、各地の環境省・地方環境パートナーシップオフィスのご協力をいたさきながら、広島市、高松市・高知市（テレビ会議方式での同時開催）、東京都、名古屋市、熊本市の計 6 会場で公開セミナーを開催し、のべ 78 名の方々にご参加いただきました。その概要を報告いたします。

この取組みは、独立行政法人環境再生保全機構「地球環境基金」の助成を受けて実施いたしました。各地の環境パートナーシップオフィスとの連絡調整について一般社団法人環境パートナーシップ会議に、環境省地方環境事務所との連絡調整について環境省環境影響評価課に、それぞれご協力をいただきました。企画・宣伝・運営においては、各地の環境パートナーシップオフィスとそこからご紹介いただいた環境分野の活動団体、環境アセスメント学会、一般社団法人日本環境アセスメント協会、一般財団法人最先端表現技術利用推進協会、株式会社フォーラムエイトの方々にご尽力いただきました。これら関係者に心からの感謝を申し上げます。

1. セミナー開催の目的

- ①自主簡易アセスの取組みと開発した支援ツールを広く紹介する。
- ②環境分野で活動する方々に自主簡易アセスへの関心を喚起し、実践を促し、その担い手の掘り起こしを図る。
- ③環境分野で活動する方々と交流することで、本会の取組みに助言を受ける。
- ④本会スタッフの研修

2. 開催概要

開催地	日時	会場	一般参加者数
広島市	2016 年 10 月 26 日（水） 午前 10 時～12 時	環境省中国環境パートナーシップオフィス	14
高松市	2016 年 10 月 26 日（水） 午後 6 時半～8 時半	環境省四国環境パートナーシップオフィス	11
高知市 (TV 会議)		高知県地球温暖化防止活動推進センター	3
東京都渋谷区	2016 年 11 月 15 日（火） 午後 1 時～3 時	環境省地球環境パートナーシッププラザ（国連大学内）	11
名古屋市	2016 年 11 月 21 日（月） 午後 2 時～4 時	錦パークビル会議室(中部環境パートナーシップオフィスのあるビル)	10
熊本市	2016 年 12 月 22 日（木） 午後 5 時半～7 時半	熊本市国際交流会館	8

※各会場とも参加費無料

3. 協力機関・団体（敬称略）

（1）共催

- かがわ環境カウンセラー協議会（高松会場）
- 一般社団法人環境パートナーシップ会議（東京会場）
- 一般社団法人九州環境地域づくり、一般財団法人国際交流振興事業団（熊本会場）

（2）協力（運営サポート）

- 株式会社フォーラムエイト（全会場）
- 一般社団法人環境パートナーシップ会議（東京以外の全会場）
- 環境省中国環境パートナーシップオフィス（EPOちゅうごく）
- 環境省四国環境パートナーシップオフィス（四国EPO）
- 環境省関東環境パートナーシップオフィス（関東EPO）
- 中部環境パートナーシップオフィス（中部EPO）
- 九州環境パートナーシップオフィス（EPO九州）

（3）後援

- 環境省 中国四国地方環境事務所（広島及び高松・高知会場）
- 関東地方環境事務所（東京会場）
- 中部地方環境事務所（名古屋会場）
- 環境アセスメント学会（全会場）
- 一般社団法人日本環境アセスメント協会（全会場）
- 一般財団法人最先端表現技術利用推進協会（全会場）
- 公益財団法人水島地域環境再生財団（広島会場）

（4）助成

- 独立行政法人環境再生保全機構「地球環境基金」（平成28年度）

4. 配布資料（各会場共通）

①小冊子『環境アセスと地域づくり』

②リーフレット『自主簡易アセスの勧め』

③参考資料（傘木宏夫執筆論文等）

- * 「自主簡易アセスの勧め」（長野県地方自治研究センター『信州自治研』No. 284、2015. 10）
- * 「環境アセスに対するNGO等の動向に関する調査」（環境アセスメント学会2015年度研究発表会要旨集）
- * 「手続き終了後の環境アセス図書の保存と公開について」（一般社団法人環境情報科学センター『環境情報科学』44-4、2016. 1）
- * 「自治体における中小規模の開発事業での環境配慮の現状に関するアンケート調査報告」（環境アセスメント学会2016年度研究発表会要旨集）

④NPO地域づくり工房紹介リーフレット

⑤会場アンケート用紙

⑥開催地の共催・協力団体等の資料

⑦原科幸彦さん提供資料（東京会場のみ）

- * 「新国立競技場計画の迷走は「簡易アセス」で回避できた」（『エコノミスト』2016. 1. 12）
- * 「環境「簡易アセス」導入急げ」（日本経済新聞2015. 9. 23付）
- * 「アセスメントの世界大会 IAIA16、日本で初開催」（環境新聞2016. 7. 20）
- * 「国際分野でアセスが進化～JICAの成果に学べ～」（環境新聞2015. 11. 18）

5. 開催状況

(1) 広島会場

催事名：環境コミュニケーションによる地域づくり ～自主簡易アセスとは？～

日 時：2016年10月26日（水） 午前10時～12時

会 場：中国環境パートナーシップオフィス（EPOちゅうごく）

参加人数：14名（一般6名、スタッフ7名）

プログラム

10:00～ 開会 司会：住田典子様（一般財団法人広島県環境保健協会地域支援課長）

10:05～ 話題提供「自主簡易アセスの実践と支援ツールの開発」

お話：傘木宏夫（NPO地域づくり工房代表理事）

11:10～ 意見交換

11:55～ まとめ（住田様）

12:00 閉会（アンケート記入）

(2) 高松・高知会場

催事名：環境コミュニケーションによる地域づくり ～自主簡易アセスとは？～

日 時：2016年10月26日（水） 午後6時半～8時半

会 場：四国環境パートナーシップオフィス（四国EPO）

【テレビ会議中継】高知県地球温暖化防止活動推進センター

参加人数：21名（高松会場11名、高知会場3名、スタッフ7名）

プログラム

18:30～ 開会 司会：森永博文様（かがわ環境カウンセラー協議会事務局長）

挨拶：井上修様（かがわ環境カウンセラー協議会会長）

18:40～ 話題提供「自主簡易アセスの実践と支援ツールの開発」

お話：傘木宏夫（NPO地域づくり工房代表理事）

19:45～ 意見交換

20:20～ まとめ（井上様）

20:30 閉会（アンケート記入）

(3) 東京会場

催事名：持続可能な時代に向けた設計コンペ手法の提案 ～サステイナブル・デザイン～

日 時：2016年11月15日（火） 午後1時～3時

会 場：地球環境パートナーシッププラザ（国連大学内）

参加人数：17名（一般参加11名、講師2名、EPO2名、スタッフ2名）

プログラム

13:00～ 開会 司会：星野智子さん（一般社団法人環境パートナーシップ会議副代表理事）

13:05～ 話題提供1「ProjectVR～設計段階での可視化と簡易アセス～」

講師：傘木宏夫（NPO地域づくり工房代表）

13:30～ 話題提供2「Arcbazar～民主的でグローバルな設計コンペ～」

講師：Imdat Asさん（Arcbazar代表）

14:10～ 話題提供3「持続可能な社会の作法としての簡易アセス」

講師：原科幸彦さん（千葉商科大学政策情報学部長）

14:30～ 会場の参加者を交えた意見交流

15:00 閉会（アンケート記入）

(4) 名古屋会場

催事名：環境コミュニケーションによる地域づくり ～自主簡易アセスとは？～

日時：2016年11月21日（月） 午後2時～4時

会場：錦パークビル会議室（名古屋市中区錦2-4-3 錦パークビル11階）

参加人数：15名（一般10名、EPOスタッフ2名、スタッフ2名、協力1名）

プログラム

14:00～ 開会 司会：新海洋子さん（中部環境パートナーシップオフィス）

14:05～ 話題提供「自主簡易アセスの実践と支援ツールの開発」

お話：傘木宏夫（NPO地域づくり工房代表理事）

15:15～ 意見交換

16:00 閉会（アンケート記入）

※閉会后、本会が地球環境基金の助成を受けている活動「自主簡易アセスの普及に向けた支援ツールの開発」についての評価会を実施した。

(5) 熊本会場

催事名：自主簡易アセス de 持続可能な地域づくり

日時：2016年12月22日（木） 午後5時30分～19時30分

会場：熊本市国際交流会館2階「国際交流ラウンジ」（熊本市中央区花畑町4-18）

参加人数：11名（一般8名、九州環境地域づくり1名、スタッフ2名）

プログラム

17:30～ 開会挨拶 司会：澤克彦さん（九州環境パートナーシップオフィス）

17:35～ 話題提供「自主簡易アセスの実践と支援ツールの開発」

お話：傘木宏夫（NPO地域づくり工房代表理事）

18:45～ コメント 藤井絢子さん（滋賀環境生協理事長）

18:55～ 意見交換

19:30 閉会（アンケート記入）

6. 交流の内容

(1) 話題提供の概要

①傘木からの話題提供（各回共通）

「自主簡易アセス支援サイト」を使って、①自主簡易アセスの定義と意義、②実践事例の紹介、③支援ツール（無償ソフト）、④ファシリテーション上の工夫と留意点、⑤今後の展開（arcbazarとの連携など）を紹介した。

また、住民説明会などで利用している株式会社フォーラムエイト様のご協力により、3D-VRシミュレーションを使って、環境コミュニケーションにおける可視化技術の利用可能性について説明した。

②東京会場でのゲストによる話題提供

* 「Arcbazar～民主的でグローバルな設計コンペ～」(Imdat Asさん)

Arcbazarは、マサチューセッツ工科大学(MIT)の建築学科から起業し、世界中から参加できる設計デザインコンペのサイトを運営。欧米を中心に5,000件以上のプロジェクトの実績があるが、言語的な問題を背景に日本からの参加はきわめて少なかった。日本語サイトが開設されるに際して、地域性や環境配慮を促す仕組みとして、3D-VRによる可視化と簡易アセスとを連携させた仕組みとして展開することになった。(仮想)オ

バマ記念館のコンペなどを取組んでいる。

* 「持続可能な社会の作法としての簡易アセス」(原科幸彦さん)

米国に比べて日本のアセス実施件数は1000分の1程度しかない。その理由のひとつに簡易アセスが行われていないことがある。米国では、政策決定の早い段階で簡易アセスを行い、影響の大きいものは本格的なアセスを行うようにしている。日本でも簡易アセスを取り入れることで未然に防ぐことのできる乱開発やトラブルは少なくないはずだ。新国立競技場の設計デザインをめぐる一連の問題は、その不透明で非民主的な進め方(デザインにあわせて都市計画による高さ規制を緩和など)と簡易アセス(事前の環境配慮)の欠如が根本にある。

(2) 主な感想や質疑応答

① 広島会場

* 生態系に関する取り組みはどうか?

(コメント) 現在取り組んでいる太陽光発電所の自主簡易アセスは林地開発が伴うもので、生態系への影響の説明が必要。生態系については得意ではないので、専門家にアドバイスをいただいて調査をし、評価に反映するようにしている。連携が大切。

* 3D-VRデータの作成にはどのくらいの期間が必要なのか。

(コメント) 作成する範囲によるが大体1ヶ月程度である。

* 植物の成長にも対応できるのか。

(コメント) 成長率を反映して作成することはできる。生き物だけではなく、都市計画を反映した地域の変化も示すことができる。

* 自主簡易アセスの費用はどのくらいになるのか。

(コメント) 今回示した事例では100万円以内に収めている。今はボランティアベースではあるが、データが蓄積されてくると、経費は安くなっていくと期待している。目安として開発費の1%以内に収まるようにしたいと考えている。

* ESD(持続可能な開発のための教育)にも使えるツールだと思う。

(コメント) 自主簡易アセス支援サイトは事業者向けとしているが、実際には住民運動の側でも参考になるように設計している。これまでに生まれてきた事例も住民の側の反発や意見があってアセスが必要と認識されたことがきっかけになっているので、住民側のアセスに対する認識を高めていくことが必要と考えている。

* (助言者まとめ) 地域での活動や仕事の上で活かせるヒントがたくさんあったのではないか。参加者は多くなかったが、ぜひ地域や職場に持ち帰って、さらに広めてほしい。

② 高松・高知会場

* 香川県内では塩田跡地での大規模な太陽光発電所が急速に広がりつつある。住宅は近いものの、景観や生態系を始め、事前配慮の取組みは必要ではないかと思った。

(コメント) 隣接して道路がある場合(特に海岸段丘上に道路がある場合)は太陽光パネルからの反射光が運転手の視覚を障害する可能性があるため、シミュレーションが必要。姫路市内での訴訟例は、事前の簡易アセスができていれば避けることができた。

* 自主簡易アセスが広がる上でどのような取組みが必要と考えているのか。

(コメント) このようなセミナーをこつこつと重ねたい。また、これまでの経験からも、住民の側からの圧力が契機となっているので、住民にアセスの理念や必要性を知らせる必要があると思う。

*生き物の生息環境の変化を3D-VR上で表現し、シミュレーションできるといいと思うが、対応できるのか。

(コメント) 3D-VRにとって苦手な分野だと言える。また、私(傘木)自信が公害系から出発してきたので得手ではない。知らない分野や苦手な分野については、つながりを生かして、アドバイスをもらいながら、調査や分析に活かすようにしている。

*小学校など「葉っぱ判定士」などの活動を重ねてきた。地域の情報を可視化できるといいと思う。

(コメント) 樹木別データとその合計、開発事業に伴うCO₂排出量等を3D-VR上で可視化することは容易にできる。ぜひ具体化したい。

* (助言者まとめ) よい学びと交流ができたと思う。事前に自主簡易アセスについて理解していれば、もっと多くの人たちに参加を呼びかけられたのではないかと思う。今日の気づきを広げて、四国の地でも自主簡易アセスの取組みを広げていきたい。

③東京会場

*自主簡易アセスを取組むように金融機関からプレッシャーをかける方法もあるのではないか。

(原科さん) 世界銀行では「赤道原則」(大規模プロジェクトによる環境・社会リスクと影響を特定、評価し、管理するための枠組み)が提唱され、環境への配慮や利害関係者との対話を融資の条件とする動きが広がっている。JICAによる途上国支援でも環境社会配慮評価(環境及び幅広い社会的なリスクを対象にしたアセス)が一般的になっているが、日本国内ではまだ取組みは進んでいない。

*自主簡易アセスのサイトや動画、評価書案などは、簡潔で可視化されており、とてもわかりやすい。制度アセスもそのように変わるべきではないか。

(傘木) 制度アセスでは、400~500頁もの膨大な図書が作られていて、景観評価もいまだにフォトモンタージュ手法が行われている。「簡易」は「わかりやすい」ことを主旨としているが、こうした実践が広がることで、制度アセスの運用や実践に影響を与えていきたい。

(原科さん) 簡易アセスの制度がすぐに日本で導入されることは難しいが、自主簡易アセスの実践が蓄積されると、大きな影響を与えるだろう。

* (助言者まとめ) 革新的な取組が広がることで、日本の開発事業やアセスに良い影響を与えていくであろうことを展望することができた。今日の気づきをそれぞれの分野や地域で広げていただければと思う。

④名古屋会場

*四日市の里山で50メガワット、94ヘクタールの大規模太陽光発電所が計画されていて、絶滅危惧種のサシバなどの生息地が失われることを危惧している。自主簡易アセスでは野鳥などの生息地についての評価はどうなるのか。

(コメント) あくまでも簡易アセスなので、既存の資料(地域の自治体や図書館、博物館など)でデータを収集して参考にしつつ、現場で確認する。必要に応じて専門家のアドバイスをお願いしている。とりわけ、自主簡易アセスでは、地域のNPOや観察団体などのデータを収集して生かすというスタンスが重要と考える。

*生き物の生息環境の変化を3D-VR上で表現し、シミュレーションできるといいと思うが、対応できるのか。

(コメント) 3D-VRにとって苦手な分野だと言える。また、私(傘木)自信が公害系

から出発してきたので得手ではない。知らない分野や苦手な分野については、つながりを生かして、アドバイスをもらいながら、調査や分析に活かすようにしている。

* 自主簡易アセスが広がる上でどのような取組みが必要と考えているのか。

(コメント) このようなセミナーをこつこつと重ねたい。また、これまでの経験からも、住民の側からの圧力が契機となっているので、住民にアセスの理念や必要性を知らせる必要があると思う。

* 環境アセスはE S D (持続可能な開発のための教育) の良い教材だと思う。

(コメント) 全くその通りで、環境診断マップづくりなどと組み合わせ、地域環境や地域社会のあり方についての学びになると思う。しかし実践的な蓄積がないので、今後検討していきたい。

* 参考資料にアセス図書の保存と公開についての論文があり、その主張に強く賛同する。アセスの結果をアーカイブできるようにすることが必要だ。

(コメント) 長年の働きかけにより環境アセスメント学会として環境省に意見し、ようやく環境省も課題整理が必要との認識に立って動き出した。環境データとしてだけでなく、地域開発史の資料としても貴重であり、適切に保存し、公開される必要がある。ぜひ世論形成にお力添えをお願いしたい。

* (助言者まとめ) 今年はI A I A (国際影響評価学会) の名古屋大会があり、環境アセスに対する関心も高まったところだが、アセスについて具体的に知る機会は少ない。そうした中でよい学びと交流ができた。自主簡易アセスについては、環境NPOが関与できることが多いと思われるので、取り組みが中部でも広がっていくようにEPOとしても情報を発信していきたい。

⑤熊本会場

* 環境対策でのコミュニケーションを図ることが求められている中、簡易だけど筋を通して議論の場を提供しようとしている点が良いと思う。

* データに使われている写真はどのようにしているのか？

(コメント) リアリティが必要な場所については現地を取材し、様々な角度から写真を撮り、それらのデータをテキストチャとして3Dモデルに貼り付けている。それ以外の場所はGoogle Earthを利用している。

* 気づきが第一なので、見えないもののヴァーチャル化を進めてもらいたい。

(コメント) 環境アセスメント制度では評価対象にしていらないが、住民の関心は環境面にとどまらず、災害リスクや安心・安全、地域経済への波及効果など、幅広い。自主簡易アセスではこうした環境社会配慮と呼ばれる範囲にも視野を広げていきたい。また、3D-VRを使えば、過去・現在・未来の可視化が可能であり、地域の持続的な成長に向けた議論に活かせるのではないかと考えている。

* まちづくりではビジョンの「見える化」されていくことは決定的に重要だ。また、将来図だけではなく、作り上げていく過程の「見える化」も大切だ。

(コメント) 英国には「コミュニティ・アーキテクト」という取組みがある。これは就職先のない若者の公共物に対する破壊行動(バンダリズム)への対策として、若い建設労働者が、地域住民とともに、学校や公民館、公園などの設計や建設の作業と一緒にやるというプログラムで、仕事に対する誇りを持つことと、自分たちが作ったものに対する愛護の心を育てることが一緒に取り組まれている。3D-VRを使った「子どもワークショップ」の経験があるが、子どもも含めて、具体的な設計に

- 関与できる。このような社会教育的な観点からの取組みにも役立てていきたい。
- * 制度アセスでこのような取組みがなされるようにはできないのか。
 (コメント) 「見える化」の部分に関しては、現状では国が示すガイドラインの枠をはみでる自主的な取組は全くない。むしろ、縦覧期間が過ぎると、評価書案などをダウンロードしても、PDFにロックがかかって閲覧できないようにしている。私たちとしては、制度を変えるためにも実践例を増やしていきたいと考えている。
 - * 行政は、不都合なことも「見える化」されることを怖れて、わざとわかりにくくしている面がある。そのような意識を変えていく必要がある。
 (コメント) 3D-VRのデータは、設計段階の協議では使われているが、住民説明にはプリントアウトされたもので説明している傾向がいまだに根強い。住民の側から「見える化」を働きかけていくことが重要だと考えている。
 - * (助言者まとめ) 今年は大地震がここ熊本を襲い、今はその復旧過程にあるが、急速に「復興」のかけ声の中で開発事業が動き出そうとしている。そうした中で、本日のセミナーはタイムリーであったと思う。今後もこのような学習の機会を提供していくことができればと思う。

(3) 写真：各会場の様子



広島会場



高松



東京



名古屋



熊本

7. 会場アンケートの結果

(1) 回答者数

会場	広島	高松	東京	名古屋	熊本	計
人数	5	10	9	11	6	41

(2) 回答内容

問1：参加しての感想

会場	広島	高松	東京	名古屋	熊本	計
有意義だった	5	10	9	11	6	40
参考になった	0	0	0	0	0	0
期待はずれ	0	0	0	0	0	0
なんとも言えない	0	0	0	1	0	1

【自由筆記】（上記の理由）

①広島会場

* 3D-VRが漁業者説明に使えると感じた。

②高松・高知会場

* NPOにとって提案力を高める手法だと思った。

* イベント時のアセスには興味を持った。

* 自主簡易アセスの取組みを知ることができた。

* 傘木の説明わかりやすい（声の大きさなど）。すばらしかった。

* 本当にアセスの必要性を痛感した。

* アセスメントの関わり方の異なる視点がわかった。

* 説明がわかりやすかった。

* 自主簡易アセスの内容とツールの内容がわかってよかった。

* アセスの話は遠い話だったので、身近に感じられた。

③東京会場

* 原科先生のお話を聞くことができた。

* 技術的側面+理念→新たな視点

* 私が知識として持ちえなかった事項で、大変参考になった。

* 自主アセスの必要性を再認識できた。

* 自主簡易アセスを応用したプロセスを構築していること。環境アセスメント学会のHPにも常駐させておいてほしい。

* 自主簡易アセスの必要性や意義がよくわかった。

* 自主簡易アセスについてほとんど無知だったため勉強になった。

④名古屋会場

* このような手法を知らなかった。

* 自主簡易アセスとはどのようなものかということが、3D-VRなどを使用しながら、わかりやすく説明してもらえてよかった。

* 事例、動画の紹介を含めて、わかりやすい説明でした。

* 自主簡易アセスの有効性が理解できた。

* NPOでアセスに取り組んでいる方がいることを知れたこと。

* 門外漢で初めての話が多かったが、日頃得られることのない話でよかった。

* 自主簡易アセスを上手に利用されている仕組みが理解できたため。

⑤熊本会場

- * 支援サイトや事例の紹介。
- * 現実的で、未来へのシミュレーションで、大変おもしろかった。
- * 知らない分野を学ぶことができた上に、今後、活かすべき、活かされるべき（自分も含め）、とてもよいアイテムだと感じます。
- * 勉強になりました。ありがとうございます。
- * アセスはとても大変というイメージがあったが、ハードルが大分下がりました。
- * 実際の現場の例が伺えてよかった。

問2：新たに学んだこと、気づいたこと（自由筆記）

①広島会場

- * 悪用されないか？ということもある。
- * 住民による環境診断マップづくりとの連携した展開が必要と感じた。今後いろんな機会を通じて働きかけていきたい。
- * 自主簡易アセスという取り組み自体を初めて知り、大変勉強になった。
- * ESDは「地域の教材化」であると考えている。地域の課題や目標の共有にも使える考え方であると思う。
- * 予測や変化の過程を視覚的に示すことによる理解の促進。

②高松・高知会場

- * 簡易診断を含めHPなど
- * 地域住民との対話のため、よりよい開発*環境のことを考えた事業をすすめるためのマナーであることがわかった。
- * データを可視化することの重要性に気付いた。
- * 業務でアセスに関わることがあるが、自主簡易アセスのツールを用いることによって事業者が自主的に説明するというスタンス、地域住民との積極的に関わる姿勢が見出せた。
- * ヴァーチャルによる視覚効果があり、わかりやすく、説得力のある内容だった。葉っぱ判定士をわかりやすく説明する方法を模索していました。
- * 環境アセスメントの対象となる部分とならない部分とがあることを知った。
- * 簡易に使えるシステムがあること。
- * とても参考になり、面白かった。

③東京会場

- * 新国立競技場問題
- * 書ききれないほど勉強になった。
- * データを可視化することの重要性に気付いた。
- * 自主簡易アセスやプロジェクトでVRを活用し住民にわかりやすく説明することや説明力を高めようとする取組み、世界中から応募を募り格安で優れた提案を受けるという試みは非常に感心した。このようなアプローチはあらゆる場面で活用できると思った。
- * VRシステムは本当にわかりやすい。これをもっと有効活用する方策が必要。
- * 現在、自主簡易アセスを、感染症予防のための社会インフラ構築を目的としたプロセスに適用することを試みている。基本的に地域住民とのコミュニケーションが重要であることを再認識した。
- * アセスとデザインコンペのつながりがわかりにくかったが、有意義な取組みであると思った。

* 自主簡易アセスの基本的な考えから事例、ツールまで幅広く知ることができた。また、普段自分が携わっている仕事に対し改善の必要性を考える機会となった。

④名古屋会場

- * 3D動画で大変わかりやすく説明できる手法で今後多様な活用が考えられる。
- * 開発インパクトにおける「見えること」の重要性。
- * 公害対策や景観などがとてもわかりやすく説明できるツールがあるということや、自然環境面については地元の団体の情報などがわかるということなので、今後参考にしていきたい。
- * 簡易アセスの具体的な手法が見えてよかった。
- * 簡易アセスをすることで住民参加の地域づくりにつながる。対話、コミュニケーションツールとして活用できること。
- * VRで景観上の配慮がかなりやりやすいと思った。自然系には使いにくいのではないか。
- * VRはすごくイメージしやすくよいものだった。
- * 簡易ソフトを無償提供されていることのすばらしさ。利用させていただきます。
- * 太陽光発電の太陽光の反射角について

⑤熊本会場

- * VRの詳細さには驚きました。
- * 環境保全の自主簡易アセスの作成が環境行政とのコラボで私たちにもできれば面白い。
- * たくさんの人に知ってほしいと思います。身近に活かすことのできるものだと実感できるところをいただきました。
- * アセスということ。
- * 3D-VRの利用はわかりやすくて伝わりやすいですね。

問3：自主簡易アセスの取組みを広げるために必要な活動（自由筆記）

①広島会場

- * ツールの絞り込みとともに、簡易測定できる項目を増やしていくことも重要。
- * 具体的な事業にいろんなパターンがあるといいと思う。また、住民の意思やアイデアがどのように反映されたのかがわかるとうれしい。
- * 使い方のパターンを増やす。取組事例を増やすこと。農林水産の分野での活用。

②高松・高知会場

- * 実際に作成する体験セミナーの実施
- * 生物・生態系等の評価（既にやられているようだが）、施工後のモニタリング
- * このような学習会に市町村の担当者をはじめ多くの方に参加してもらいたい。
- * 地域ごとに取り組む組織があって、そこが推進していく必要があると思う。
- * 都市景観、交通事故多発地帯を探すのにも取り組めるのではないか。
- * メリットを事例として示す（合意形成の容易さ、調整時間の短縮や経費節減等）
- * 環境カウンセラー研修会。住民視線が良いと思う。気づかないことがわかる。
- * 環境への配慮が必要であるとの認知を広めることが必要。
- * まずは住民の関心を得ることが必要。それから事業者が積極的に取組みをPRすることが必要。
- * 環境行動につながった例なども発信してもらえると面白い。

③東京会場

- * 金融からの圧力。

- *自治体を動かすこと。
- *事業者がいかに関心やインセンティブやメリットを得られるか。また、自主簡易アセスを実施したことがしっかりと世間に認められることが必要。
- *ホームページ、学会、賛同研究者の拡大、何かのイベントで簡単に街並みを造成し、アセスメントを自分たちでできることをアピールする。
- *太陽光パネルの問題を抱えている自治体に紹介したい。
- *各企業（中小企業が多いと思われる）に、自主簡易アセスという選択をさせること。認識させること。

④名古屋会場

- *各地のNPOや自治体にPRしてほしい。四日市にも来てほしい。
- *本当のニーズ（お金を出す人）がどこにあるかが重要と考える。
- *いろいろな事例がわかると取り組む気になると思う。事例がわかるようなものがあると良い。
- *アセス内容の妥当性、正確性などの評価のため第三者審査などの仕組みの導入の検討等。
- *着地点を明確にする。
- *住民の参加を促していくまでに、住民が自分の住む地域についての興味を持つこと。地域で活動する団体が、活動の記録、データをきちんとして、それを蓄積していく。またそれらを収集する仕組み。
- *自然環境の影響に関するコミュニケーションの促進。
- *事業者と住民、団体との話し合いが多くもたれるように期待しています。
- *事後モニタリングできる仕組み（日々変化した情報を集約し、変化のあったときに、それにすぐ対応できる体制づくりや財源）。
- *実施者（事業者）にとってもメリットの明確化。

⑤熊本会場

- *どんどん事例を増やし、行政の意識改革につなげてゆくことを期待します。
- *行政と一緒に取り組むことだと思います。太陽光のように行政に不都合なところは取組みを避けられるでしょうが、あえて成し遂げることが地域住民のためになると思います。
- *人目に触れる機会が増えると良いと思います。
- *今のまま続けられれば、必要な方から広がるのではないですか。
- *知っている人は少ない。各地にコア要員（団体）を増やし、すそ野を広げられるとよい。

問4：自主簡易アセスの仕事について（東京会場は別質問）

会場	広島	高松	東京	名古屋	熊本	計
自分の仕事にしてみたい	2	1	-	1	3	7
関連した仕事をしてみたい	2	4	-	1	1	8
もう少し深く知りたい	1	4	-	4	4	13
なんとも言えない	0	2	-	0	2	4

【自由筆記】（上記の理由）

①広島会場

- *2) 持続可能な地域づくりの考え方のひとつとしてPRしていきたい。

②高松・高知会場

- *1) ぜひ自分の活動に活かしていきたい。
- *1) まちづくりが発展しそう。

- *2) こういう仕事をする人がいて、NPOとして生活できる人が増えるといい。
- *3) 法アセスとの違い、法アセス内での活用。
- *3) まだ「アセス」じたいがよく理解できていないので。
- *4) 内容が相当難しい。
- *4) 普及させる方の業務をやっているのです。

④名古屋会場

- *2) 生物多様性の普及啓発に応用します。
- *2) 自然系の情報が少ないと思うため、何か一緒にできたらいいと思う。
- *4) 自然環境系についても充実させてほしい。

⑤熊本会場

- *1) 自分のやりたいことに活かしてみたい。
- *3) 今の活動と結び付けられないか考えてみたい。
- *3) イベント開催時でも実施前の振返りができるところが活用できそうです。

問4：Arcbazarの試みについて（東京会場のみ）

①大変良い、広がることを期待：3

※コメント：評価を誰が行うかが課題だと思う。

このような試みが広く周知されれば、より発展するのではないかと思う。

②良いが普及は難しいのでは：3

③良いとは思わない：0

④わからない：2

※コメント：やや混乱しました。

Arcbazarの内容を理解しきれなかったのです。

問5：本日の至らない点について

①広島会場

*特になし。

②高松・高知会場

*特になし。高知で聞いて良かった（TV会議）

*事前にもう少し詳しく分かっていたらもっと多くの人によびかけたかった。

*もう少し大きな会場で、多くの人に聞いてほしい。

③東京会場

*特になし。

*途中休憩があると良かった。

*強いて言えば英語の講演については通訳の方との事前調整がもっとあると良い。

④名古屋会場

*特になし。しいて言えば、もう少し参加者で話し合いたかった。

*ないです。

*事業者団体の参加があればよかったと思う。

*専門家のためのセミナーなので仕方がないのですが、かなり専門家でやや内容についていけなかった。

⑤熊本会場

*非常に参加しやすいセミナーでした。一方的でなく良かったです。

*なし

問6：ご自身について

設 問	選択肢	広島	高松	東京	名古屋	熊本	計
①性別	男	3	6	6	7	2	24
	女	2	4	3	4	4	17
②年代	20歳代	1		2		1	4
	30歳代			1	3	1	4
	40歳代	1	5	3	4	1	14
	50歳代	2	2	3	3	2	12
	60歳代	1	3		1	1	6
③住所	市内(都内)	2	4	4	4	4	18
	県内(関東)	1	2	5	3	1	12
	その他	2	4		3	1	10
④きっかけ	EPO	4	8	3	7	2	24
	知り合い紹介			2	2	2	6
	マスコミ		1				1
	上司の指示			2		1	3
	その他				2	1	3
	無記名	1	1	2			4

8. 事業の実施に係る環境配慮

(1) 廃棄物の発生抑制

焼却ごみなどの廃棄物の発生を最小限にとどめるため、次の取組みを行った。

- ①広報活動は主にインターネットを活用して行った。
- ②必要なもの及び数量を事前に的確に把握し、余分なものを作らないようにした。
- ③余った消耗品等は持ち帰り、再使用するようにした。
- ④パネル・看板等の必要な資材は既存のものを使った。
- ⑤使い捨て商品などの物品は配布しなかった。
- ⑥やむを得ず発生したごみは、会場の分別区分に従って廃棄した。

(2) 地球温暖化防止

地球温暖化への影響を最小限にとどめるために、次の取組みを行った。

- ①開催における主催者の移動はすべて公共交通を利用した。
- ②参加者に公共交通の利用による来場をよびかけ、全員が公共交通機関で来場した。
- ③会場での照明の明るさや温度設定に配慮し、電力消費量を最小限にとどめた。
- ④事前事後の宣伝物や報告書の作成に際して、電子媒体の利用を図っている。

以上

発行：NPO地域づくり工房（代表理事：傘木宏夫）

長野県大町市仁科町 3302（〒398-0002） ホームページ：http://npo.omachi.org

Tel&Fax：0261-22-7601 E-Mail：npo@omachi.org